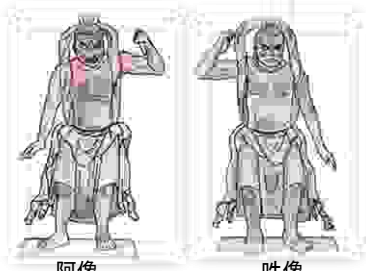


藤宿 マップと対比してみる 浦和のお宝マップ

廓信寺

KAKUSINJI



阿像

吽像

①廓信寺仁王門と仁王像

門は三間一戸の八脚門。江戸後期の建物。仁王像は元和2年に中村吉照が寄進したものと修復のさい墨書にて確認された。

紅赤誕生の地

明治31年木崎村針ヶ谷(現在の北浦和)の山田いちは、質の良い甘藷を発見。親戚の吉岡三喜蔵が改良普及し「紅赤」を名付け、またたくまにこの品種は全国に普及した。昭和6年、いちは富民賞を受けた。



紅赤



埼玉サッカー発祥の地碑



モクレン

④埼玉サッカー発祥の地

さいたま市役所の場所にはかつて師範学校があり、明治41年(1908)7月、細木志郎が埼玉師範学校に着任した。細木は東京高等師範で当時「蹴球」とよんだサッカーを学び、埼玉師範に蹴球部を創設し指導した。全国優勝を果たすなど、埼玉のサッカーは確実に根付いた。

⑤玉蔵院地藏菩薩

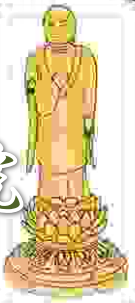
カヤの一木造り。像高67.9cm。地藏堂の本尊として古くから信仰されてきた。平安時代後期の作と思われる。温和な顔立ち、ややいかり肩。4月23日には堂の扉が開けられ拜むことができる。安置されている地藏堂は安永9年に建立とされる三間仏堂で柱は円柱。三手先により軒が深くなっている。



シダレザクラ

玉蔵院

GYOKUZOUIN



地藏菩薩立像

⑦西堀医王寺(桜区西堀)

梵鐘は宝暦14年(1764)の鑄造。西堀氷川神社の別当寺だった宝性寺(廃寺)の鐘であった。撞座が4つあること、乳の上に梵字を陽刻しているなど特徴があり、美術的にもすぐれている。市域では唯一戦時供出されなかった梵鐘である。



②常盤公園(御殿跡)

江戸時代初期には徳川家が鷹狩りの際の休憩所として使用した「御殿」が置かれた。明治26年ここに浦和裁判所が建設された。現在赤レンガの門柱と塀が残る。裁判所移転したその跡地が現在の「常盤公園」で昭和51年に開園した。

③仲町公園(本陣跡)

浦和宿本陣があったところ。天正18年星野権太兵衛は岩槻城攻めの道案内を守備よくした褒美に市場の開設を許され、関東一般市場取締役に任命。苗字帯刀を許され、名主・問屋を勤めた。その子孫の星野権兵衛は寛永年中に本陣職を命じられ、鳥見役も兼務した。

調神社

TUKIJINJYA



稲荷社(日本殿)



サクラ



脇障子の兎

⑥調神社

月待供養が盛んだった中世には、調神社は月宮殿に擬せられていたこともあり、月天子の使い姫である兎の彫刻が、今でも境内にたくさんみられる。日本殿は享保18年(1733)の建立だが、脇障子・正面墓股は波を蹴る兎の意匠。妻飾りには鯉の滝登り、青海波の文様。板唐戸の左右には登り竜下り竜が納められている。